

第3回 札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会を開催

札幌開発建設部で現在実施中の夕張スーパーダム建設事業及び幾春別川総合開発事業のダム事業について、一層の事業費・工程監理の充実を図るため、「コスト縮減策やその実施状況」、「事業の進め方等」について学識経験者等のご意見を頂く場として「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」を開催いたしました。

記

- 開催日時 平成22年7月8日 13:30～16:00
- 開催場所 札幌開発建設部内会議室
- 議 題

1. 夕張スーパーダム建設事業

- 1) 事業費、工期の変更
- 2) コスト縮減の取り組み
 - ① 立木伐採契約方法の見直し
 - ② 付替林道の見直し
- 3) 事業の実施状況・実施方針



2. 幾春別川総合開発事業

- 1) 事業の実施状況・実施方針
- 2) コスト縮減の取り組み
 - ① 堤体設計・施工・材料などの見直し
- 3) 今後のダム事業の進め方

◆「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」委員名簿◆

◎委員長（敬称略、五十音順）

名 前	役 職 等
◎泉 典洋 いずみ のりひろ	北海道大学大学院工学研究科 教授
許士 裕恭 きよし ひろやす	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ グループ長
向田 直範 むかいだ なおのり	北海学園大学法学部政治学科 教授
山下 弘市 やました ひろいち	元北海道土木技術会 コンクリート研究委員会委員

◆議事要旨◆

○各委員からの主な意見は以下のとおり。

(1) 夕張シューパロダム建設事業

(質問) コンクリート製造方法や打設工法の変更が工期と事業費の変更にどのように関係しているのか。

(回答) 試験施工等を通じてコンクリート製造方法や打設工法を確立する過程で不測の時間を要したことで工事工程が遅延した。また、工事工程の遅延によりコンクリート製造等仮設備の供用期間が延びたことで事業費が増となった。

(質問) 堤体コンクリートの打設は、RCD 1.0mで施工されているか。

(回答) 平成22年度からRCD 1.0mで施工している。

(質問) 再評価のB/Cについて、H17評価時 $B/C = 2.5$ からH22評価時(予定) $B/C = 2.0$ に下がった要因は何か。

(回答) 事業実施による効果(被害)の算定にあたり、前提条件のうち河道断面について、現況河道断面からダム完成時点の河道断面へ変更したことが、想定する氾濫被害が小さくなりB/Cが下がった要因のひとつである。また、完成予定工期を平成24年度から平成26年度に延伸したことでB/Cが下がっている。

(質問) 平成26年度に完成できる見通しは立っているか。

(回答) 現時点では、平成26年度完成できる見通しである。

平成25年度は、大夕張ダムの一部撤去を行うが、撤去期間が非かんがい期に限られることや大夕張ダム直下に発電所があるため作業現場が狭小であることから工程管理をしっかりと行うことが必要であると考えている。

(意見) 早期完成に向けて事業を進められたい。

(質問) 付替道道として予定した区間はダム貯水池の管理用道路として有効と考えるが、道道の工事が中止となったことでその機能は確保されるか。

(回答) 今後、ダム貯水池の管理方法を整理し、既成部分の取り扱いについては、道路管理者(北海道)と協議することとしている。

(質問) ダム貯水池内に位置する旧森林鉄道橋梁群の取り扱いに関する検討状況はどうか。

(回答) 夕張市の文化財指定を受け、存置する方向で関係機関と協議を進めている。

(意見) 旧森林鉄道橋梁群を存置した場合には、貯水池内で船舶を運行する際の接触等の事故に対する安全対策が必要である。また、橋梁群にゴミ等が付着し景観上で見苦しい状況が呈されないことが必要ある。

(回答) ダム管理上で支障とならないように、存置する場合の問題点について、更に検討を進めて参りたい。

(2) 幾春別川総合開発事業

(質問) コスト縮減において、三笠ぼんべつダム の地すべり対策工の見直しとあるが、対策工法の見直しがあるいは地質条件の見直しなのか。

(回答) 三笠ぼんべつダムは流水型ダムに変更したため、上流の対策が不要となり、試験湛水時に斜面を確認する程度に留めることが可能と考えている。

(質問) 新桂沢ダム のコンクリートは、中3日で打設することは可能なのか。

(回答) 北海道は冬期に打設することが出来ないが、夏場は集中して打設することで作業能力を高め、打設を早めることがコスト縮減上で重要である。他ダム の施工実績から考えると中3日の打設は可能。

(質問) 三笠ぼんべつダム の排砂設備は洪水時に流水遮断を行うのか。

(回答) 原案では、流木、堆砂の問題が整理されておらず、洪水時に排砂設備へ流水が流れ込まないよう、速やかに流水遮断するための強固なゲートが必要であった。その後の検討で、流木、堆砂の問題が整理され、常用洪水吐きと排砂設備を同標高に設置することが可能となり、流水遮断を行う必要が無くなった。

(質問) ダム事業の検証は今年度に終わるのか。

(回答) 今夏頃に中間とりまとめが行われ、その後、個別ダム の検証の指示が出ると考えている。その後整理していく。

(以上)